

第4回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

- 1 日時 平成27年11月26日(木)午後2時00分～午後3時30分
- 2 場所 上天草市役所大矢野庁舎 書庫棟2階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）等の協議・検討
 - (3) 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 上天草市人口ビジョン（素案）概要版
 - 資料2 上天草市人口ビジョン（素案）
 - 資料3 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）概要版
 - 資料4 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）
- 6 議事概要

(1) 開会

○事務局より、第4回会合を宣言。構成員が数名欠席となるが出席者が過半数を超えるため、本会合が成立する旨を報告し、議事進行を座長に依頼。

(座長)

- ・この会議は地方創生で若い人が新しい仕事、働き方を考え、安心して子育てできる環境づくり、上天草市に移住、定住、居場所づくりといった地方創生の文脈で3回ワークショップを行い、いろいろなご意見をまとめて出してきた。それを見て確信したことは、上天草はすごく良いところで、皆さんが愛しておられると感じた。今から話す内容もそうだが、上天草らしさを意識していただきたい。皆さんのふるさとである上天草市らしいものをつくりたい。基本的にあるものでやっていきたいと思うので、その辺りを理解しながらお話を聞いていただきたい。
- ・今日の議事は1つなので、皆様にも積極的にご意見を言っていただきたい。上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）等の協議・検討ということで事務局から説明をお願いします。

(2) 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）等の協議・検討について

○事務局より資料 1 に基づき説明。

(座長)

・人口ビジョンの説明は資料 1。資料 2 で細かいところまでの説明。資料 2 については持って帰っていただいてじっくり読んでもらいたい。

地方創生の話の中で一番重要なことは人口減をどう考えるか。

3月に熊本大学に徳島県の大南信也さんに来ていただき講演していただいた。その時に人口減といってもピークから考えると 50 年先は半分になってしまう。ショッキングではあるが、江戸時代ぐらいの人口になるだけだと大南さんは言われた。確かに、人は減ると困るが、それ以上に人口ピラミッドがいびつな形になることが困ると。若年層が少なく、上の方が多い。人が減るのは住みやすくなるかもしれないと肯定的に捉えられないかと。そういったことを創造的過疎と言う。徳島県神山町は 20 組移住してきたとして 10 組は子ども連れの世代を優先的に移住してもらおう。何を目標しているかというところと小学校が廃校にならないことを目指している。具体的なターゲットを絞っていることが大事だと。なので、人が減ることを恐れてはいけなと思うが、どのぐらいまで我慢できるか。何もしなければ 10,612 人で、対策すれば 12,647 人とあるが、大事なものは内訳だと。やる気も無い、何もしたくないが税金が安いといった理由で無気力の人が残っても仕方ない。税金が安いことは大事だが、人数が少なくても上天草市を楽しいところにしようとして一生懸命活動している人がいたほうが良い。問題なのは質ということの頭の中に入れてほしいと思う。自然減は高度に医療が発達しない限りは仕方ないが、問題は社会減。社会減については上天草市に大学がないので、大学に行くとするなら熊本へ行ってしまう。18 歳で多くが移住している。22 歳で帰ってきている割合も多いが、そのまま居着いたりする方もいるのでそういった方々をどう呼び戻すのか。何をやるのかは資料 3 で話すが、前提として人口減少に歯止めをかける。歯止めをかけることは社会減をどうにかすることともあるが、結婚、子育て等、今の社会にいる皆さんがやりたい、願っていることをやる。早く結婚することはいいことだと思う。子どもを産まずに離婚するほうが問題。女性が働きながらも子育てができる環境を整えること。最後に暮らしやすい地域づくり。従来は企業誘致といった生業ばかりを持ってくることに重点をおいていたが、上天草らしい働き方、暮らし方をいかに増やすかのアイデアが大切であり、これが基本戦略となる。資料 3 を議論する前に資料 1 についての質問があれば受け付ける。

【意見等】

- ・2040年の出生率は、仕事と雇用と人口を組み合わせで2030年の出生率を想定しているのか。

（事務局）

- ・2030年、2040年の出生率をどうやって把握したかという、資料2の34ページ、※印に合計特殊出生率の算定を記載している。これは国が出生率を求める際に使った数式に現段階で「予定子ども数の九州の夫婦50歳未満」「理想子ども数の九州の夫婦50歳未満」といった現在で把握できる近い地域の年齢層の方をアンケートに基づき数値を当て算出した。

（座長）

- ・資料1に書いてあるが、上天草では合計特殊出生率が1.72で熊本県の平均が1.64なので県内では真ん中。2人の夫婦から子どもが1.72しかできないので基本的に子どもが減っていくが、何かをすれば2030年に2.07まで回復して2040年には2.13まで進むと。これは根拠と言うより希望である。努力をしないとこのようにはならないと。今から上天草市がどういった努力をするかを考えないといけない。
- ・ここに書いてあることは過程で人任せにする内容ではない。民間、行政といろいろな方いる中で、皆さんの担当のところで何ができるのかを考えてほしい。具体的な内容は今から説明する資料3になる。資料3の説明を事務局から説明をお願いします。

○事務局より資料3に基づき説明。

（座長）

- ・資料3について考えたい。最初にこの会議の位置づけとして、12月はもう1回開催するので、今日できていない部分があってもよいが、12月には会議をしなくてもいいぐらいの内容になっていると思うのでこれが最後のチャンスだと考えていただきたい。少し作りが甘いのでもう少し説明がいると思う。
- ・KPIといった評価指標があるが、これの決め方が難しい。数値目標を作り、達成しているかチェックすることは大事なことだが、数値目標を達成することに執着するあまり、何のために設定したのかを忘れることがある。その点考えないといけない。一番駄目なのは、上天草市に行きたくなる！に書いて

ある観光入込客数。観光入込客数だけ増やすのであれば熊本駅に観光バスを横付けして無料ですと人を連れてきても、その人達は上天草で何もお金を使わず、天草に行くためだけに上天草に来たかもしれないのに入込客数が増えてしまう。そういった話ではない。具体的に観光に携わる人が何人増えた、レストラン、旅館に泊まる人が何人増えたといったようにしなければならない。地元の人が住みやすいのは当たり前なので、それ以外のものを作らないといけない。皆様に議論していただきたいのは資料の右にある上天草市に行きたくなる！上天草市に住みたくなる！上天草市で働きたくなる！の中の「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」の項目について議論してほしい。ワークショップで出た内容は◇の項目に含まれている。上天草市に行きたくなる！から意見をいただきたい。

（事務局）

- ・先ほどの説明の補足として、概要版にある事業の内容を示したものが参考 1 の資料になる。この資料の中で気になる部分があるのであれば参考 1 を見ていただければ分かると思う。

（座長）

- ・「ア」がターゲットを設定した観光メニューの開発でポジティブ渋滞事業はあった。いっそ混んでいるのであれば混んでいることをラッキーと思うようなアイデアがあった。「イ」の観光客誘致に向けたイベント・プロモーションでは島わたりプロジェクトで、上天草市には無人島があるので仮設のテント村があり、船で渡って行くと。「ウ」は集客力を高めるインフラ整備は Wi-Fi 等。「エ」は市民及び観光産業を担う経営者の育成で猪ハンティング特区等があった。

【意見等】

- ・行きたくなる要素が働きたくなるに掛かってくると先生からあったが、観光客だけを考えるよりも流れとして観光になると考えたかどうか。外から上天草に移住をしたいと思う方がいるのであれば、仕事があるから。ワークショップの中で上天草の魅力的な仕事があるから住みたくなる、人が仕事の中で生活をして営みが生まれる。観光として一番いいのは、上天草の人からすれば普通のことで、外から見ればそれが魅力的になる部分が観光開発のキーワードになるのではないかと。一つ一つ区切って考えると根拠の無い観光になるのではないかと思うので、つなげて考えれば厚みのある観光のイメージになるのではないか。

(座長)

- ・まさにその通りで、つながっている部分が大事である。青だけ、緑だけ、赤だけを選ぶとかえって難しくなる。行政には管理する部門があると思うが、総合戦略、地方創生については 2 つの部門が一緒になって行うことが多いと思うので、部門間で連携を意識して聞いていただくと、ご指摘の通りになるのではないかと。
- ・観光の面で上天草らしさは住んでいる人には分かりにくい、外の人からみれば違って見えるのでそこを意識して考えていただければいいのではと言ったアドバイスだったかと思う。前言撤回して青、緑、赤どれでもいいので気づいた部分を発言していただきたい。

【意見等】

- ・3 つのテーマからになったので発言しやすくなった。今、全国的に進められている農地の集約があるが、上天草市にもすぐに再生できる耕作農地、荒れ地が 2 割ある。30、40 年も放置されているのは除いても、目の前に広がる耕作農地にされたところを集約する。そこに新しい考え方を持った新規営農者を呼び込む。その新規営農者の方は新たな発想を持っていると思うので観光につなげた農作物を作ってくれと考える。働きたくなる部分に農地集約及び耕作農地再生による新規営農者増を入れていただきたい。

(座長)

- ・働きたくなる部分の新規営農者は考え方が新しいので観光、新しい農業体系を築いてくれるかもしれないと。農業の話も出ましたが、漁業といった 1 次産業でも言えること。すごく良いアイデアだと思う。

【意見等】

- ・住みたくなる、働きたくなる全ての事業に M&A を取り込むことが必要ではないかと。

(座長)

- ・M&A とは何か。

【意見等】

- ・事業を譲渡すること。後継者がいなかった事業をそのまま譲ることである。

(座長)

- ・居抜きと言うか、やっていた事業をやりたい人に譲ること。農業でもできるということか。

【意見等】

- ・できる。M&A は難しく考える必要はなく、放棄した人が農業をやりたい人に譲ればいいので。働きたくなる部分になるかと思う。

(座長)

面白い意見である。他にないか。

【意見等】

- ・第 2 回のワークショップの中で話していたことと合わせてやりたいこと、ということで提案したヒーリングビジネスがあった。これは観光、新規の事業、住みたくなるというところまで考えた提案である。何を意味するかと言うと、私も観光に携わることがあったので動く部分に重ねて取り組んできた。片や静の部分に重ねてやることで、人の求めること、現在あるものを活かす。なおかつ、住みたくなる部分で考えると新規の事業としてはターゲットとしているのは企業であり、働いている人達になる。場所としては旅館、ホテル等をあげていたが営業者の連携、その人達に育てられた人達がビジネスを行うような場面を想定して提案した。癒やしによって住みたくなる部分で今後、一極集中から地方へ流れていくと思うが、2 拠点の住居を構えている方は求められるところなのかと。一つは働く場所として東京なり大阪なりで、もう一つはセカンドハウスとして上天草に構えているといった人を増やしていく。最終的には子育てをしていく場所として選定基準になるといった提案である。

(座長)

- ・イメージだとヒーリングビジネスの中心は青、緑、赤だとどこになるか。

【意見等】

- ・観光なので青になる。

(座長)

- ・全部に関連していますが一番濃いのはどこか。それが行政の窓口になるし、表記の仕方を考えてやりたいと思う。

- ・あとは 2 拠点化の話。これは大事で、例えば上天草であれば熊本市内から 1 時間 30 分で来られるので案外近い。先ほどは東京、大阪の話をしたが熊本と上天草で住む、働くのもできるのかと。自分が働きたいところで働いて、ふるさとで暮らすのが大事なのかと思う。

【意見等】

- ・皆さんは理想的で建設的な意見でこうやってしまうのも恐縮だが、役所主体で総合計画を策定し、実際できるような事業を入れて作った。しかし、数年も経っていないのにほぼ実践できていない。役所がこういったものを作り、議論して作ったものはほとんど成功しない。全国の市町村で総合戦略を作ってる。その中で人口ビジョンを作って自分のいる市町村で人口をいかに増やすか考えている。この中にこれまで議論をしてきた事業が入っている。盛りだくさんなのはいいことだと思うが、あいまいな資料にするのか、ある程度絞り込んで、KPI も具体的なものにするのか。観光入込客数にしてしまうのか。それとも、例えば、もう少し絞って総合戦略で考えた、例えばある商品の売り上げがどうなったのか。総合戦略の作り方の話ですが他所も似たようなものを考えると思うので人の取り合いになると思う。なので、盛りだくさんにするよりもある程度は絞り込むほうがいいのではないかな。夢を描くことも大事だとは思いますが、実現できるような計画にしていただけだと。そうすると、民間の委員の方もいるが、金融機関、農業、漁業等で働いている方々が本当に実感できるようなものにすべきかと。どの事業をどうするという訳ではなく、絞り込むための議論をしていただきたい。

（座長）

- ・前向きな意見である。総合計画は行政の方の為のマニュアルで、そこに市民の理解が重要であるが、市民がやるべきことはなかなか書き込めていない。ある市では、市民が自分たちでアクションプランを作ろうではないかといった人達がいて活動している。夢を描くことは大事で、やりたいという人がいなければ始まらない。そういった部分で今年は意見を出し、来年度以降は実行しなければならない。そのためには上天草市の若者、移住定住していただいた皆様と一緒に市民のアクションプランを作る話は進める。私も事業があまりにも多すぎるのではないかなと思う。

（事務局）

- ・事業は今回の時点ではたくさんある。その中から絞っていききたい。正直に言うと、実現できないものもあると思う。事務局的には、これは概要版であ

るが本編にしても、これを絶対にしたい、上天草市の特色を出したい事業に関しては具体的に事業を書く。それ以外に関しては施策の部分の書きぶりで消化できればと思っている。

(座長)

- ・結論としては「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」ぐらいしか残らないということか。

(事務局)

- ・◇の部分も何個か残したいと思っている。

(座長)

- ・「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」と◇を何個か残すイメージで。一緒のもの、項目の場所が違うものがあれば増やしたり減らしたりすることが今なら可能なので、ぜひ残してほしいといった項目があれば言ってほしい。ここで重要なのはどこなのか凝縮していくような作業。ここには民間の方、行政の方もいるので、行政は、主観としてはこういった事業だが、他にも関連しているといった心配りをしていただければと。行政の方も否定的な意見ではなく、建設的な意見を言っていただければありがたい。

【意見等】

- ・数値目標を決めたとして、それをどう管理するのか。民間は案を作ったならばそれを管理し、いかにして達成できるかを追求する。例えば、役所の方は商品を作ったらそれで終わりといった感じがする。企業はそれからが大事。生きていかなければならないので、決めた以上は徹底的に数字を追求していく。多いときは月に1回チェックをする。第1次総合計画があり、去年第2次総合計画が策定された。それを誰がチェックするのか、どう評価するのかを決めてほしい。その報告を広報で途中経過、結論を書いてほしい。そうしなければ絵に描いたもちになってしまう。いろいろな計画を作っているが、それを実行するのが大事。チェックする責任者をつけてほしい。もっと具体化して、チェック項目を設定してほしい。

(座長)

- ・大事な事である。企業が生きているというのはいい言葉だなと。私も計画屋なので、計画を作って満足してしまうが、大事なのはその後。これについてはどうなっているか。

（事務局）

- ・ 今後策定した後の話であるが、資料 4 の 5 ページ、(3)「施策の推進及び効果検証の実施」で、それぞれ設定した KPI 指標について振り返りをこの推進会議で進捗管理、見直し等を行っていく。策定して 28 年度以降、最低 5 年間は会議を立ち上げて見直し等を行うことを考えている。

（座長）

- ・ 数字はただの数字でその先の未来、大きく 4 つの柱に拍車がかかるか、上天草らしさが大事だと思う。

【意見等】

- ・ 観光の話でターゲットを絞る、プロモーションを作る、魅力を作るといった話で多くの方に訪れていただいて、日帰りの客に 3,000 円から 5,000 円を地元で消費してもらおうとか、お泊まりいただければ一泊二日で 18,000 円ぐらい使っていただくという話があったときに、なるべくお泊まりいただいたほうがということだが、せっかくお泊まりいただいても使ったお金が地元の人のお金になっているのかどうか大事だと思う。地元の物を買っていただく、提供するのであれば地元にお金が落ちるけど、他のところで作られたものを売ってしまったら、ただの販売者になってしまう。どうやって地元の物、各産業に広げるか。裾野を広くする観点から農林業、製造業の方々の産業と広げ方をどうマネージしていくかが今後の方向性の 1 つかなと思う。
- ・ 例えば、観光地に行けば地域がものづくりをしているところがたくさんある。地域でものづくりをしている所は交通条件が悪くてもなにかがあるだろうと。言い方が悪いですが、旅館に行けばそれが買える、ある所に行けば買えるではなく、地域が楽しめるような形にすれば魅力づくりになるのかと。上天草で何をするのかはどこかで議論をすると思うが、そういった連携が必要になる。役所で言えば観光課、企画課だけではなく物産を担当する課、農林業、水産業を担当する方も連携しなければならないし、地元の経済団体とも連携をとらなければならないと思う。行政は計画を作ってそこで終わる、また PDCA の話があったが、人口減を抑制したいことが大きな狙いで、そのためにあらゆる行政スタッフで効果的にもっていききたいと。ここに記載することで国からの交付金事業等々を具体的に持ってくることができる。市としては乗れる事業は乗って財源を確保しながら推進したいといった考えがある中で、片方ではあれもこれも書いてあっても何もできないではないかといった話になるのも真実。そのなかで財源を確保しつつ、重点化するような事業を進めるなら何がいいかと思うと難しいと思うが、あらゆる手法を考え

ながらも目玉になるものができればいいのではないかと。そういったまとめ方もできるのではないかと。先ほど座長から PDCA を行いますよとあったが、戦略自体は来年度主要なものについてチェックする。計画を立ててチェックして見直しをしてアクションする。

（座長）

- ・消費産業地域ではなく、目的地化する地域。最近観光は多様化していて昔みたいに見て終わりではなく、住んでいる方に近い体験をすることが大事だと言われている。ツーリズムという言葉も使う。オールタナティブツーリズムと言う。もう一つの道をどうするのか。お金も大事だが、お金だけではなく「ありがとう」という言葉が大事だと言っている。絶景はリピーターを生まない。人というのは大事なのである。観光だけではなく住みたくなる、関わりたくなるものにも関わっていると思う。PDCA の話は、最近の事業計画の中では言われること。ただ大事なものは財源も大事であるが、やりたいと思う気持ちがあるかどうか。民間だと担い手になるし、行政だと担当者。担当者の皆さんもこれだけはやりたいと 5 年間で思えるかどうか。事業はたくさん書いてあるが、絞る必要もある。

【意見等】

- ・上天草市で「働きたくなる！」の項目で、今上天草市は観光の事業者が多いが、担い手の部分で苦勞している。そういったことをサポートできないかと。新しい観光も出てきているので、新しい観光に就きたいと思っているような方に支援できる仕組みが作ればなど。「住みたくなる！」の項目ですが、子育てしやすいまちづくりで、女性の社会参画で女性という文字を入れたほうがいいのかなど。将来、上天草を担っていく人材の育成ということで、将来、希望が持てるような新しい取り組みも必要なのかなと。

（座長）

- ・観光事業者が多いので、そういった方々の支援とか、新しい観光を創造してくださる方への支援、それと女性参画についてもう少し言葉で書いたほうがいいのではないかと。あとは人材育成の話で、グローバル人材の話。説明をお願いしたい。

（事務局）

- ・各部署と打合せを行い検討したい。

(座長)

- ・グローバル人材のイメージはあるのか。どんな子を育てると、上天草の観光のためになるのか。

【意見等】

- ・イメージとしては、子ども達が将来的に海外で活躍できるようなステップアップをできるような経験、サポートができる様な環境。

(座長)

- ・単に英語ができるではなく、枠にとらわれないような学び方ができる環境になればいいということ。女性の社会参画についてはせっかくなので女性の方に聞きたい。実際に言葉で女性と書いてあるほうが嬉しいかどうか。

【意見等】

- ・女性と書いてあれば嬉しい。

(座長)

- ・熊本は全体的に男社会なので、普通はあまり見ませんが女性と書いてあると嬉しいかもしれない。

(座長)

- ・先ほど観光入込客数では駄目と言ったが、これは上天草市の観光に携わる経営者の話で、場所が良いから物が売れるのではなく、売ろうと思う人がいないと売れないから事業者支援する仕組みがあればと。新しい観光とはどのような観光であるか。

【意見等】

- ・今のニーズにあった観光をイメージしている。

(座長)

- ・知り合いが小布施町にいる。若者会議とかやっていて元気なところ。スポーツでまちおこしをしていて最初は普通だなと思った。ところがスラックラインというスポーツがあって、細い綱の上でぴょんぴょん跳ねるだけなんです。がシュールで面白い。何人かは世界 5 位といったレベルで、広告収入でまかなっていて自分たちで作っている。スポーツと言えば野球やサッカー、テニスといったイメージだが、ボルダリングなど地味であるが、自分と向き

合うスポーツが今は取り入れられている。

【意見等】

- ・新たな観光はなぜ新しいのか。それは一般の人達のニーズが動いているから新たな観光になるのかと受け止められる。これから新しい観光、新しい就労者、新しく感じなくても住みたいと思わせるニーズ。今の人達は何をほしがっているのかの掘り下げが必要かなと。今の人達はこれからの時代を作っていく人達で、私たちとは全く違う考え方を持っているので、新しい何かを生み出すには今の人達の考え方を知って、働き方を知る。今の若い人達はどのような働き方が喜ぶのか企業が考えて、その人達がどのような生き方を望んでいるのかを考えないと現実的ではないかと。

（座長）

- ・クライアントがいてクライアントがこういったものを作ってくれと注文に対して形にするのがデザイナーの仕事。今までの働き方が悪いわけではないが、それに何かが必要と考えたときにそれを期待されているからであり、それを掘り下げる必要がある。若い世代以外の考え方もある必要だが、多様性が大事である。

【意見等】

- ・若手の意見としては交流人口を増やし、上の世代の話を聞きながら新しいことを生み出していきたい。

（座長）

- ・最近の若い子は先輩の話をよく聞く。話をしっかり聞いて次の世代にどう残せるかを考えている子が多い。上の世代の知識、経験を次の世代に生かそうと。ニーズの話もあるが、今の若者は私たちの世代とも違いそんなこともしているのかと。聞いてみると上の世代が言えることもあるのかなと。

【意見等】

- ・同じような会議、同じような議論がどこの場所でも行われていて議論が出尽くしたのかなといった印象。あとは、やるか、やらないかだけかなと思う。具体的にできるような方策、とりあえずやってみようといったものが今後必要になるのではないかなと思う。市民目線として、どこの団体も何もやっていないイメージがある。観光で言えば閑散期対策、平日対策。それと繁忙期の渋滞対策が問題になっているが、戦略はあるが兵糧と武器が足りないイメー

ジである。

(座長)

- ・議論は尽くされていないと思う。議論をしていても始まらないので何かを始めないと。今の日本ではチャレンジがしにくい状況で、市の方々がチャレンジしたら市民の皆様からの批判がくる。大学も同じであるが、是非、若い方々にチャレンジしていただきたい。多少の失敗はあると思う。平日対策、交通渋滞対策は行政でないとできない。民間もやっているから行政もやろうよと上天草市だからできることをやっていただきたい。是非これからの会議もオープンにして、12月までに意見等をいただきたい。

【意見等】

- ・市としてはどういった人に移住してもらいたいかが明確にしたほうが良い。公にするのは難しいが、定年後の方はお金もあって次の住処ということで来られると思うが、若い人は移住先を探していても情報が少ない。上天草としてこういった人達に来てほしいと明確にすることで、そういった人達にも情報が伝わるのかと。地域で創作活動을しながら新たな取り組みを広げていけるのかなと。趣味が染色することとか、元々竹細工をやっていたといった人達が上天草市に来ることで上天草に足りていない物を補えるのではないかと感じることもあるので、政策を実行する上での的を絞ったやり方があるのではないかと。

(座長)

- ・民間で「上天草はこんなメリットがある」といった動きを発信してもらえれば良いと思う。行政のバックアップが大事なのかなと。計画は作るのが目標ではなく、その先の4年間をどう進むか。そこまでお付き合いいただきたい。

(3) 閉会

(事務局)

- ・本日の議題は全て終了しました。次回は12月17日(木)になります。詳細については通知と合わせて資料を送付します。

第4回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議 出席状況

氏名	所属等	出席
石炭 圭一郎	上天草市建設部建設課 係長	
入口 絃光	上天草市経済振興部観光おもてなし課 参事	○
岩崎 敏治	株式会社隆勢 代表取締役	
岩原 慎一郎	株式会社肥後銀行大矢野支店 支店長	○
大野 公二郎	上天草市総務企画部総務課 係長	
片島 荷風	デザイナー	○
北垣 洋	北垣水産	○
木下 榮	上天草市セカンドライフ支援ネットワーク 会長	○
迫本 潤一郎	上天草市経済振興部農林水産課 課長補佐	○
篠田 良	上天草市教育委員会事務局教育部社会教育課 係長	○
杉本 健一	一般社団法人天草四郎観光協会 事務局長	
園田 健吾	上天草市総務企画部総務課 主幹	
田口 英明	上天草市教育委員会 教育指導員	
田中 尚人	熊本大学政策創造研究教育センター 准教授	○
田中 道範	上天草市社会教育委員長	
永野 富子	上天草市健康福祉部健康づくり推進課 係長	○
西川 みち恵	社会福祉法人上天草市社会福祉協議会地域福祉課 課長	○
西原 一雄	上天草市建設部都市整備課 参事	
一 喜美男	熊本県天草広域本部 総務部長	○
濱田 真和	株式会社マルマサ浜田鮮魚 取締役	○
濱崎 富雄	上天草市教育委員会 中央公民館長兼市立図書館長	○
深谷 恵了	姫戸ひかり保育園 副園長、寺院僧侶	○
益田 佳世	上天草市健康福祉部福祉課 係長	○
松本 俊博	熊本県立上天草高等学校 教頭	
宮内 勝幸	あまくさ農業協同組合大矢野統括支所 指導販売課長	
森 隼人	上天草市健康福祉部高齢者ふれあい課 参事	○
矢田 健一郎	株式会社熊本銀行大矢野支店 支店長	○
吉野 誠	上天草市市民生活部環境衛生課 主事	○
吉本 博明	上天草市市民生活部税務課 主幹	○
渡邊 一成	天草信用金庫企業業務部・地域創生室 理事部長	○